



環境に配慮し、古紙パルプを含む再生紙とベジタブルオイルインクを使用しています。

 JAPAN
NAGOYA

干潟でつながる 人・自然・未来

GEE LONG DAYS

ジロング・デイズ

平成23年度 オーストラリア・ジロング市との
湿地提携に基づく人的交流事業

報告書

 AUSTRALIA
GEELONG

GEE LONG DAYS 干潟でつながる 人・自然・未来

ジロング・デイズ ●発行／名古屋市環境局 〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 TEL 052-972-2662 FAX 052-972-4134
●発行年月／平成25年3月

平成 24 年 3 月、名古屋の中学生 18 人は、環境保全の取組を学ぶため、オーストラリア・ジロング市を訪れました。

セントレアでの出発式



渡り鳥のルートでつながる名古屋市とジロング市は、湿地提携を結んでおり、渡り鳥の保護につながる湿地の保全と活用にとともに取り組むこととしています。

ジロング市への派遣は、平成 19 年度と 21 年度に続き、今回が 3 回目になります。

この報告書は、その平成 23 年度の派遣の記録です。

contents

1	2	— ジロング市との湿地提携
3	4	— 藤前干潟
5	6	— 1日目 ジロング市役所
7	8	— 2日目 クイーンズクリフ小学校
9	10	— 2日目 スワンベイ干潟
11	12	— 2日目 海洋発見センター
13	14	— 3日目 アームストロングクリーク
15	16	— 3日目 ジラリング・コアラ野生動物保護区
17	18	— 4日目 セリンディップ保護区
19	20	— スナップ写真集
21	22	— 派遣レポート
23	24	— 同行者の紹介

schedule

月 日	訪 問 場 所
3月25日	〈 移 動 〉
3月26日	・ジロング市役所
3月27日	・クイーンズクリフ小学校 ・スワンベイ干潟 ・海洋発見センター
3月28日	・アームストロングクリーク ・ジラリング・コアラ野生動物保護区
3月29日	・セリンディップ保護区
3月30日	〈 移 動 〉



ジロング市にあるスワンベイ干潟で、生きもの観察

名古屋市は、 オーストラリア・ジロング市と 湿地提携を結んでいます。

名古屋市にある藤前干潟には、多くの鳥が飛来します。

中には、シベリアからやってきて藤前干潟で過ごした後、オーストラリアなどに渡っていく鳥もいます。

名古屋市は、そのようなつながりから、平成 19 年 5 月 22 日に、オーストラリア・ジロング市と湿地提携を結びました。それ以来、名古屋市とジロング市は、協力して湿地の保全や活用に取り組むこととしています。

渡り鳥にとって湿地は、えさの確保や繁殖、休息のための大切な場所です。国境を越えて移動するから、国際的に協力して湿地を保全していくことが必要なんだね。

オオソリハシシギ



© 中部地方環境事務所

国が違えば文化も違う。
でも、干潟を大切に思う気持ちは一緒でした。



藤前干潟では、鳥たちが群れをなして空を舞う姿が見られます

voice

- ▶ 干潟はすごく楽しい所です。どんどん生きものが見つかり、たくさん学ぶことができます。
- ▶ カニやシャコなど、いろいろな生きものがあります。貝の種類も豊富で、大きいものから小さいものまでいます。
- ▶ 2、3千羽の群れを作って飛ぶカワウや、豪快にハンティングするミサゴ、せわしく穴をつついてゴカイを食べるハマシギの群れなど、多くの鳥を見ることができます。ぜひみなさんも、鳥を見に藤前干潟に足を運んでみてください！



潮が引いた干潟に入って、生きものさがし

日本最大級の渡り鳥の渡来地 藤前干潟

名古屋市の港区にある藤前干潟は、数多くの水鳥が飛来する、日本最大級の渡り鳥の渡来地です。シベリアなど北半球の繁殖地と、オセアニアなど南半球の越冬地を往復している、シギやチドリの大切な中継地となっています。

大都市の中にあいながら、渡り鳥や干潟の自然に接することができる藤前干潟は、平成14年11月18日にラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）に登録されました。ここには、約60種類の水鳥が飛来するほか、ボラ、シジミ、カニなど多くの魚介類・底生生物が生息し、名古屋市の中でも生物多様性が豊かな場所の一つとなっています。



キアシシギ



オナガガモ



チュウシャクとトウネン

えさをついばむハマシギ



1日目

ジロング市役所訪問



AUSTRALIA

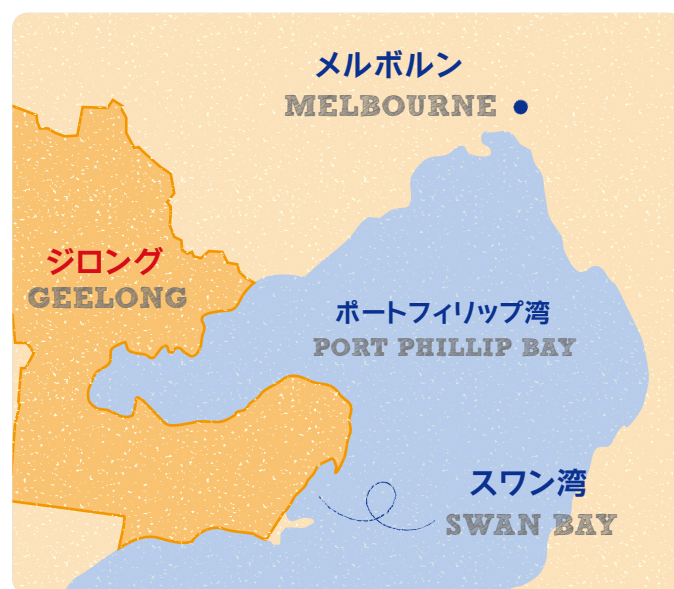


ジロング市ってどんなところ？

ジロング市はオーストラリアの南東、ビクトリア州に属しています。人口 23 万人の、州の中で 2 番目に大きな都市です。フォードを始めとした自動車などの製造業が盛んな港湾都市であるとともに、豊かな自然環境にも恵まれ、別荘地や観光スポットが数多く整備されています。

ジロング市役所を表敬訪問しました。

職員の方々に迎えていただき、副市長から歓迎の言葉をいただきました。名古屋の中学生からは、名古屋の文化や歴史、藤前干潟についてプレゼンテーションをしました。



voice

- ▶ オーストラリアに到着して、まず感じたのは緑の多さです。高速道路でも道の間に芝があったり、街路樹が植わっていたり。また、牧場や公園も非常に多いので、車の中からでもとても気持ち良かったです。車の量が多いことや日本の会社があることなど、日本との共通点も見つけることができました。

2日目

クイーンズクリフ小学校との交流



とってもカラフルな校内



一緒に作りました！

現地の児童と一緒に環境について学びました。

クイーンズクリフ小学校は、全校児童 21 人の規模の小さな学校です。学校の裏手には、広大なスワンベイ干潟が広がっていて、児童は、干潟とその生きものについてとてもよく勉強していました。

名古屋の中学生とクイーンズクリフ小学校の児童で 2、3 人のグループを作り、一緒に干潟に入ったり、環境学習施設を訪れて、生きものについて学んだりしました。そのほか、干潟の生きものの工作や、昼休みにはクリケットや鬼ごっこをするなど、交流を深めました。

今回の訪問を、校長先生を始めとする先生方もとても楽しみにされていて、児童は日本の文化について勉強したそうです。教室には習字で「歓迎」と書かれた紙や、七夕のような飾り付けがあり、温かく迎えていただきました。



仲良く鳥の工作中



温かいおもてなし



楽しくクリケット

voice

- ▶ 日本の学校みたいに遊びと勉強がしっかり分かれておらず、遊びながら勉強する感じがした。下級生と上級生の境がなかったことが印象的でした。
- ▶ クイーンズクリフの児童たちは、僕の話す片言の英語をしっかりと理解してくれました。干潟を友達のようにして遊び、そのあとも楽しく協力をして工作をし、ひとときも笑顔が絶えませんでした。僕は、言葉では通じなくとも、心で通じ合える何かを実感しました。
- ▶ ペアの子ととても楽しい時間を過ごしました。帰る時にお手紙をもらったのは本当にうれしかったです。



ラムサール条約登録湿地 スワンベイ干潟



時に足がはまってしまうことも



小学校の先生の説明を聞いています

大きな鳥の姿も見られました



column

湿地のライブ映像配信中!

- 名古屋市とジロング市は、お互いの湿地の様子を発信しています。
- ここで、湿地のライブ映像を見ることができますよ!
- <http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/fujimae/livecamera/>

voice

- ▶ 僕のペアは低学年でしたが、熱心に干潟に生息する生きものについて話してくれました。干潟をととても大切に思い、いろいろ調べたのだと分かりました。
- ▶ ブラックスワンやペリカンなど、藤前干潟にいない鳥を見ることができて嬉しかったです。
- ▶ 藤前干潟は泥ですが、スワンベイ干潟は砂でした。スワンベイ干潟にはたくさんの海藻が生えていました。藤前干潟には地味な色の貝しかいないので、赤やピンクの貝が見つかり驚きました。
- ▶ スワンベイ干潟には、ごみがほとんどありませんでした。オーストラリアの人たちの環境意識の高さにビックリしました。



海洋発見センター



ヒトデにタッチ



何がいるかな?



海で見つかるものの展示

どう?
一瞬ほんとの
カメかと思った?



水中をただようクラゲ



いろいろな種類の 生きものがあるね。

センターの外で
説明を聞いているところ

海洋発見センターでは、スワンベイ干潟に生息している生きものや、見つかったごみなどの展示を小学生と一緒に見て回り、生きものの生態や大切さについて学びました。

ここはビクトリア州政府の施設で、海の生きものや水質など、海洋環境に関する研究施設も併設されています。



voice

- ▶ 入る前にアルコールで手を消毒しましたが、その理由は生きものに菌がうつらないようにするためです。ここには、イカやフグ、怒ると色が変わるブルーリングオクトパスなど色々な魚がいました。ヒトデに触れる広場やイカのえさやりなどもありました。
- 様々な工夫で、自然への関心を高めようとしていて、すばらしいと思いました。



アームストロングクリーク



これからここに住宅が建つんですね

開発前にこの地区の植生を調査し、その種子を集め、住宅の完成後に元の植生に近い状態に復元させます。

住宅からの排水を下水処理施設で処理します。処理された水は、再生利用水として庭への水遣りなどに使えるように循環します。

コネワラ湖の栄養分が高くなりすぎないように、水路の途中にろ過施設が設けられます。

そしょう
海水が遡上しすぎないように水路には傾斜がつけられます。

voice

▶ 25年後どのような街になっているのか、ぜひ見に行きたい。

環境に配慮しながら
住宅開発が進められています。

ラムサール条約登録湿地の一つ、コネワラ湖の上流部には、アームストロングクリークという、もともと小川のあった自然豊かな地域があります。ここではジロング市の増え続ける人口対策として、住宅開発が行われています。この開発は、民間会社がジロング市と話し合い、コネワラ湖を始め、周囲の環境に配慮しながら進められています。ここには新しく22,000戸の住宅が建てられる予定で、そのうち4,000戸の造成が行われている場所を見学しました。



開発計画



ジラリンガ・コアラ野生動物保護区



説明を聞いて、保護区内を回ります



カンガルーの姿も



じっくり観察中



みなさまようこそ

ウォンバット

野生動物が保護されています。

ここでは、傷ついた野生動物の保護などを行っています。コアラなど、オーストラリアの特徴的な野生動物を公開している施設もあります。

この施設の役割

1. 生態系の保護

カンガルーやディンゴなど、絶滅の危機にひんしている動物を捕獲し、繁殖させて自然に返し、数を増やす取組をしています。また、森林開発によってすみ場所を追われたコアラが保護されています。

2. レスキューセンター(動物の保護)

鳥を始め、ウォンバットやコアラなどの傷ついた野生動物を保護しています。保護された動物は、2～3年でもともとすんでいた場所に返されます。

3. ペットホテル

飼い主に先立たれたペットも、遺族の希望により引き取って保護しています。

この施設は、公開施設への入場料とペットホテル代金、ペットの引き取り料、寄付金によって運営されています。

voice

- ▶ 政府から補助金を受けることなく運営されていることに驚きました。
- ▶ 国や州の支援があると、もっと生態系の保護が進む気がしました。また、ここにいる動物の中には、飼い主が飼えなくなり預けられたものもいて、やはり生きものを飼うときには、最後まで責任を持って飼ってほしいと思います。
- ▶ 私たち人間の都合によって多くの動物が苦しんでいることを改めて感じました。私たちはこれから自然と、動物と、どのように共存していくか、考えていかなければいけないと思います。

4日目

セリンディップ保護区



水辺を舞う鳥の姿

column

オーストラリアの入国審査は厳しいの？

オーストラリアでは、卵製品やナッツ類など、様々なものの持ち込みが、禁止されたり制限されたりしているよ。それは、他国の害虫や病原体の侵入を防いで、オーストラリアの動植物や環境を守るためだよ。

絶滅の危機!?
野生動物を守る取組

この施設は、鳥類を中心に、自然界で個体数の減ってきた種を繁殖させる取組を行っています。広さは 250 ヘクタールで、ジラリガ・コアラ野生動物保護区より広く、動物はより自然に近い状態で飼育されています。

生きものに見入っていたら、
あっという間に時間が過ぎてしまいました



voice

▶施設の周りに囲いがあるだけで、そこにいる動物たちが入るおりはなく、鳥が暮らしやすいようにとても広く、自然界と同じように暮らしていました。また、人間が動物たちに危害をあたえないように人が通る道やトンネルのようなところがあり、そこから観察できるようになっていました。

album



派遣前の学習会で、
藤前干潟で見られる鳥について
勉強しているところ。

藤前干潟に入って生きものの観察。
この時ウナギも見つかりました。



ジロング市役所表敬訪問に向けて、
発表内容の準備中。



帰国後の発表会。
環境デーなごや 2012 の
ステージにて。



帰国後の発表会。
この時は、
名古屋おもてなし武将隊と一緒に。



school: 神沢中学校 | 2年 | name: 大山 ひかる

この派遣で特に印象に残ったのは、実際に湿地に入り、どんな生きものがいるか探索したことです。湿地に入った時、水がとてもきれいで、水中には水草があたり一面に生えていました。そのすきまに、子ガニや、クラゲの赤ちゃんや、小さな虫がたくさん隠れていたり、えさを求めて飛び回る鳥々の姿がありました。湿地にはとても多くの命があることを、改めて実感することができました。それに、湿地の周辺に全くごみが捨てられておらず、環境を守ろうとする意識が高いことを感じました。

ジロング市へ行って、地元の人一人一人が環境を保とう、守ろうと懸命に努力しているのが素晴らしいと思いました。その保全活動によって、何万、何億、それ以上の尊い動物の生命が守られていることを改めて実感しました。今私たちが環境をより良くするために出来ることを行い、一つでも多くの命を守りたいです。ジロング市で学んだことをより多くの人々に伝え、環境に配慮して暮らせるように呼びかけていこうと思います。一人一人の「環境を大切にしよう」という心と行動で今ある自然を大切に、それと同時に緑を増やしていきたいです。

school: 愛知淑徳中学校 | 2年 | name: 加藤 奈菜子

私はオーストラリアに行くまで、地球規模で起こっている環境汚染について、あまり実感はありませんでした。しかしオーストラリアに行って、日本よりも空気がきれいなことや、ごみやタバコの吸いがらがほとんどないことに驚きました。私はその時初めて、日本の環境が汚染されているんだと実感がわいたような気がします。気づいていなくても、環境は少しずつ汚染されています。では、どのようにすれば環境汚染を防げるのでしょうか?ごみを分別すること、節電、節水を心がけること、ごみ拾いのボランティアに参加すること、いろいろな方法があると思います。でも私は、一人一人が環境汚染が進んでいることを自覚し、どんなことをすれば少しでも環境が良くなるかを考え、それを少しでも行動に移すことが1番大切だと思います。そうすれば、藤前干潟はもちろん、自然を守っていけるのではないかと思います。

今回の派遣で、私はたくさんのことを学び、新たにいろいろなことに気づかされました。このように、改めて環境について考える機会を与えてくれた今回の派遣に参加させていただき、ありがとうございました。



school: 御幸山中学校 | 2年 | name: 佐藤 慶一

派遣を終えて1番印象に残ったのは、スワンベイ干潟について、その地域の子もたちが大切に思い、よく学習をしていたことです。ぼくはこの派遣があるまで、藤前干潟という名前は聞いたことがあっても、実際に訪れたことはありませんでした。名古屋市には、市民が守った干潟があるにもかかわらず、その知識が浅い人がいることは良くないことだと強く感じました。

オーストラリア大陸にいる貴重種の動物たちを絶滅させないために、入国の前に食品や植物・土などを全て捨てなければなりません。厳しすぎるのではないかと思います。派遣中に野生動物保護区などを見学して、その気持ちが変わりました。自分が見たことのない動物たちが、絶滅の危機にさらされているのを知ったためです。日本も、固有種をもっと保護するための対策をするべきだと思います。

このように今回の派遣は今後の藤前干潟のため、自分のためになったかなと思いました。この経験を周りの人に伝えていくことにより、藤前干潟について市民がよく知り、より良い環境になるといいと思います。本当にありがとうございました。



school: 植田中学校 | 2年 | name: 陣川 泰介

長かったような短かったような6日間の中で、特にぼくが心に残ったのはオーストラリアの景色、そしてクイーンズクリフ小学校の児童たちとの交流です。

小学校の児童とペアになり活動をして、湿地の生きものだけではなく、たくさんの英語にもふれ合うことができました。小学校の子たちが一生懸命準備してくれたため、湿地では本当にたくさんの生きものを観察することができました。また海洋発見センターでは、一つ一つの生きものについて熱心に説明してくれるので、聞いているこっちも真剣になりました。相手の英語を聞きとり、さらにそれに応じて返事をしなくてはなりません。でも授業の時の何倍も集中するので、ものすごくいい勉強になったと思います。

この6日間、本当にたくさんのことがあり、とても疲れたし嫌なこともありました。ですが、初めて日本を離れたことで、今まで気付くことのなかった日本のいい所や、オーストラリアを見習うべき所も見つけられ、とてもいい経験になったと思います。人、英語、野生動物など、多くのものにふれ合うことのできた派遣でした。





school: 金城学院中学校 | 2年 | **name:** 朴 珠恩

初めてのオーストラリアにドキドキした、出発前日の夜。「オーストラリアってどんな雰囲気なのかな」「友達と仲良く過ごせるかな」「藤前干潟について学んだこと、知っていることを上手く伝えられるかな」「現地の小学校の子とうまくなじんで干潟を観察できるかな」……。実にたくさんの不安を抱えると同時に、わくわくしながら日本を出国しました。

6日間、湿地を通して取り組んでいる様々な事業や、野生動物の保護、メルボルンの代表的な建築物を見て、思ったことや、そこから学んだことはたくさんありました。しかし、自称「私のオーストラリア学習会」で学んだ大切なことは、それだけではありません。仲間と共に1日を過ごす上で大事なことで、湿地交流事業によって派遣される生徒の一員としての責任感、日本以外の人たちと接する、異文化コミュニケーション……。どれも今回の学習会で学んだことです。それと同時に、これから私が生きていく上では、どれも欠かせない大切なことでもあると思います。私をオーストラリアまで派遣させてくださった先生方、現地で仲良く過ごしてくれた友達、本当にありがとうございました。

school: 津賀田中学校 | 2年 | **name:** 番 千咲

ジロング市へ行って印象に残っていることは、自然の豊かさです。ジロング市には、日本よりも緑がたくさんあった気がします。普通に道路を走っているだけでも草や木が目に入り、気持ち良かったです。

2日目に、海洋発見センターを現地の児童と見学したことは刺激的でした。色々な生きものを触ったり、見たりしました。

最終日に行ったセリンディップで1番印象に残っているのは、カモがすごく近くで観察できたことです。さくやおりも何もなく、しかも逃げていかなかったのが、すみずみまで見られました。毛並みが綺麗でかわいかったです。他にも、エミューやカンガルー、アリなど、大きい動物から小さい動物まで観察しました。さくなどの隔てるものが無いことも多く、森の中にいるようでとても面白かったです。

私は今回の派遣で、本当に貴重な体験をたくさんすることができました。また、自然や環境についても、色々な事を通じて考えることができたと思います。なので、これからは、この6日間で得たことを生かして、もっと自然のことに目を向け、学びながら生活していきたいです。



school: 宮中学校 | 2年 | **name:** 山田 隼大

ぼくの派遣の目標は「名古屋の人々とジロングの人々との環境に対する意識の違いを見つける」ことです。結論からいうと、目標は達成できたと思います。

スワンベイ干潟の観察のとき、干潟を歩く時の注意点で「そっと歩きましょう」と言われました。それでぼくは、「なんでそっと歩かないといけないのかなー」と思いました。そしたら、「なぜなら、そっと歩かないと土の中にいるカニなどの生きものが死んでしまうから」とおっしゃっていました。ぼくは、オーストラリアの人々はそこまで気を配って、生きものを保護していたのかと実感しました。

最終日に、セリンディップで動物を観察しました。そこでは、動物の生き生きとした姿を感じました。

ぼくは、オーストラリアの人たちは、とても環境に敏感だなと感じました。敏感になったのは、たぶん動物とふれあう時間が長いんだと思います。それに比べ名古屋の人は、動物とふれあうきっかけがありません。なのでぼくは、名古屋の人たちに動物のかわいさ、大切さを知ってもらいたいと思いました。そして、まず「水鳥」について知ってもらいたいと思いました。



school: 愛知工業大学附属中学校 | 2年 | **name:** 山中 布武己

ぼくが印象に残った所を説明したいと思います。

1つ目は、ジラリंगा・コアラ野生動物保護区です。そこは、コアラ、カンガルー、インコなど、色々な動物が飼育されているところです。そして、インコの数がとても多いです。なぜなら、インコの寿命が70～80年ぐらいあることを知らずに買って、インコより先に飼い主が死んでしまい、引き取ったインコが多いからです。そこで感心したのが、保護区の運営費を市から一切もらわず、ペットホテル代や入場料で、えさ代などをやりくりしていることです。ぼくは、動物を積極的に保護するこの保護区が、とてもすごいと思いました。

2つ目は、海洋発見センターとクイーンズグリフ小学校です。海洋発見センターでは、スワンベイ干潟にいる生きものを「見たり・知ったり・さわったり」することができます。そこには、藤前干潟と形や大きさが異なる生きものがたくさんいました。特に、イカがとても変わった形でおもしろかったです。クイーンズグリフ小学校の児童は、とてもよくスワンベイ干潟のことを知っていて、そして全員がフレンドリーでした。

どちらにも共通していることは、自然や動物の保護について知ることができました。





school: 振甫中学校 | 2年 | **name:** 横井 友香

私が6日間で1番楽しかったのは、クイーンズクリフ小学校の児童との交流です。私の英語力とジェスチャーでも、お互いに分かり合えて、色々話すことができ、学ぶこともありました。

スワンベイ干潟に入って生きものの観察をした時、海藻や泥が多く、足が埋まってしまいました。一見すると、静かで生きものは見当たらなさそうでしたが、海藻・泥を少し除くと、貝、カニ、エビ、イカなどがいて、私も捕まえることができました。まさに生きものの宝庫でした。海を埋め尽くしそうな海藻も泥も、生きものが生きていくのには欠かせない、大切な役割を果たしていました。小学校の子は、すごく優しく、親しくしてくれたので、始終楽しく過ごせました。

最後に、6日間の派遣を通して、ジロングと名古屋を行き来する渡り鳥がいることが分かり、色々な動物について学びました。そして、言葉は違っても人と分かり合うことができました。これからも、素敵な渡り鳥や生きものを見続けるために、干潟を守り、さらにきれいにしていきたいです。また、名古屋に素晴らしい干潟があることを広めて、多くの人に干潟に親しんでもらいたいと思います。



school: 名古屋中学校 | 1年 | **name:** 木下 歩

3月26日、ジロング市役所に行き、事前学習会で調べたことを発表しました。緊張したけれど無事に終わることができました。この発表では、渡り鳥を守っていくために国同士のつながりも大切にしなければいけないのだと思いました。3月27日、干潟に行き、生きものを観察しました。海藻の中をひとすくいするだけで、小さなえびや魚など、たくさんの生きものが見られたのでおもしろかったです。3月28日、ぼくは、住宅地を造っている所に行きました。近くには湖がありたくさんの生きものがすんでいます。人間が生活すると、どうしても下水が発生するので、ろ過する必要があります。しかし、何千人もが暮らすところで雨と汚水を浄化するのは大変です。そこで雨と生活排水を分け、雨はそのまま湖へ流し、浄化するのを生活排水だけにしました。これは画期的な発想ですが、これくらいなら他でもやっていそうだと思います。3月29日、向かった先にはたくさんの鳥がいました。おりの中にいる鳥もいましたが、ほとんどが野飼いにされていました。

派遣を終えて日本に帰ってきて、うれしくもありましたがさびしくもありました。

school: 名古屋大学教育学部附属中学校 | 1年 | **name:** 小椋 翔大

オーストラリアで体験したこと、印象に残ったことを、簡単に順を追って話したいと思います。

まず、スワンベイ干潟についてです。干潟を案内してくれたのが地元の児童ということに驚きました。1回日本で藤前干潟に入ったことがあるので心配は特になかったのですが、入ってすぐに泥に足がはまり焦りました。水は思ったよりも冷たく、草がたくさん浮いていました。広さは藤前干潟より大きく、藤前干潟みたいに工業用地のど真ん中にあるのではなく、大自然の中にあるという感じでした。

次にジラリング・コアラ野生動物保護区についてです。保護区は東山動物園みたいな都心部にあるのではなく、大自然の中にあります。コアラ、ワラビー、ウォンバット、カンガルー、ディンゴなどのオーストラリア特有の動物がたくさんいました。運営は国や自治体から金が支給されていないので、入場料やペットを預かったりして、運営費をまかなっているそうです。

オーストラリアに行って本当に良かったと思っています。学んできたことを生かしてこれからもがんばりたいと思います。



school: 高針台中学校 | 1年 | **name:** 後藤 香穂

スワンベイ干潟は、藤前干潟とは違い泥ではなく砂で、陸地と湿地の段差が少なかったです。そこでは、たくさんの生きものを見つけることが出来ました。貝は土の中に埋まっているものは少なく、シャベルを使わず手で探すことができました。パートナーになったサムとジェッドは、私の名前をすぐ覚えてくれてうれしかったです。ジェッドはヒトデが好きなのか、「スターフィッシュ」と言って何度も私に見せてくれました。干潟に入ると、二人ともカニや小さな虫を夢中になって捕まえていました。二人が藤前干潟に来たら、アナジャコやトビハゼ、ウナギなどを見せてあげたいです。そして干潟での食物連鎖について教えてあげたいです。

今回この派遣を通し、オーストラリアは自然が残されている面積が広く、動物や自然を守ろうと努力している人が多いと感じました。私は派遣に行く前に、藤前干潟との違いを見つけてくるという目標を立てました。結果、各国の湿地における生きものがそれぞれ異なるということが分かりました。日本は、自然が少ないからこそ、守っていかなくてはいけないと思いました。そのためには、みんなが自然を守ろうと心掛けることが大切だと思います。





school: 守山東中学校 | 1年 | name: 豊田 淳人

6日間のうちで1番印象に残ったのは3日目のアームストロングクリークです。

アームストロングクリークでは大規模な開発を行っていて、草がしげっている地域を住宅地にしています。しかしその近くには、ラムサール条約に登録されているコネワラ湖があります。職員の方たちの話では、ここに家を建てるのは、コネワラ湖に来る水鳥が見られるという理由で、人々が興味を持って移り住んでくるかららしいです。住宅などから出る生活排水を浄化しても、大変少量ですが、コネワラ湖へ流れ込んでしまうようです。「浄化施設も建てるし、コネワラ湖に影響が出るようなレベルではない。」というような説明も受けました。しかし、これから学校やスーパーマーケットなども建つ、何万ヘクタールにも及ぶ住宅地の開発の話聞いた時に、今はたいしたことはなくても何十年も経った時には、水鳥にとって大切なコネワラ湖が汚染されてしまっているのではないかと、とても心配になりました。生活排水は直接出ないとしても自分の個人的な意見としては、できれば自分たちの興味本位で自然を壊してしまうような行為はやめてほしいと思いました。

school: 滝ノ水中学校 | 1年 | name: 豊田 航太

ぼくはジロングの湿地で学んだことを藤前干潟で生かし、たくさんの人に広めて環境保全への意識を高めたいと思ってこの活動に参加しました。スワンベイ干潟を見て、藤前干潟と大きく異なっていると感じました。まず、スワンベイ干潟は広大で、草木の生い茂った環境に囲まれているのに比べ、藤前干潟は狭く、大都会の中にあります。次に、藤前干潟も植物プランクトンによって黄緑色の部分もありますが、スワンベイ干潟では、水草などで広い範囲が緑色に見えました。両干潟の共通点は、潮の満ち引きがあるところと、水鳥や水生生物が多く生息するということです。また、スワンベイ干潟から渡り鳥が藤前干潟に来るので、スワンベイ干潟と同じくらいの住みよい環境が藤前干潟に必要です。そのためには一人一人が環境保護意識を持ち、今ある藤前干潟を大切に、より良いものにしていけることが必要だと思いました。

最後に、オーストラリアに行くことで環境保護への取組や、自然の美しさや大切さ、日本人に対する優しさ、自然を愛することの素晴らしさを知ることが出来ました。藤前干潟の保全活動を、今回の経験を生かして、さらに良いものにしたいと思います。



school: 若水中学校 | 1年 | name: 布目 大貴

オーストラリアでの6日間を振り返ってみると、驚きや大変なことがたくさんありました。

海洋発見センターには多くの魚がいて、ぼくは特にハリセンボンとイカのえさやりを見て驚きました。セリンディップには、カンガルーやワラビー、コモドオオカゲなど、多くの生きものがいました。オーストラリアにはこんなにも多くの種類の動物が生息しているんだなと思いました。そして、ぼくがこの派遣で1番印象に残っているのは、アームストロングクリークです。22,000軒の家を建てる時に、自然のことをしっかり考えていました。

オーストラリアの町にはいたる所に自然があり、とても空気がおいしい所だなと思いました。日本では車が多く空気が悪いので、もっと自然を大切にしようと思うようになりました。オーストラリアはとても楽しかったです。いろんな動物を見ることができ、たくさんの友達ができました。なにより毎日初めての体験ばかりで、あっと言う間の6日間だったなという印象です。ぼくは、オーストラリアの人の、少しでも自然を汚さないための取組を、日本の人たちに伝えていきたいと思います。

school: 一柳中学校 | 1年 | name: 林 祐太

日本を離れて海外に行くのは、今まででも何度か経験があるのですが、今回のオーストラリアは今までで1番楽しくて、印象的でした。オーストラリアは、外見やスケール、食事がかなりちがったのでおどろきました。また日本と違いとても広く、移動はかなり時間がかかり、田舎の方では牛や馬が広々と飼われていました。それでも人口はとても少ないので、もったいないと思いました。

ぼくが1番オーストラリアで楽しかったのは、クイーンズクリフ小学校の児童とのふれ合いです。英語を実際に試すいい機会となりました。ぼくのペアは7才の背が小さい男の子でした。他にも何人か友達になりました。これは大きなものを手に入れられたのではないかと思います。ぼくはオーストラリアでの1番の目標を、友達をたくさんつくことに決めていたので、達成できて良かったです。また、日本人の友達もたくさんできました。6日間本当に楽しかったです。

他の子とは違う経験ができたこの春休み、勉強はあまり出来なかったけど、満足感と充実感でいっぱいでした。



school: 神の倉中学校 | 1年 | **name:** 藤田 大輝



ぼくがこの6日間で学んだことはたくさんあります。初めての海外旅行体験は、環境保全についてだけでなく、オーストラリアの文化も学ぶ機会となりました。

海洋発見センターでクィーンズクリフ小学校の児童に海の話を書きました。ですが、英語力が不足、ペアの女の子と上手く会話ができません。ぼくは言葉がのっている本を必死で読みながら、何とか笑顔とジェスチャーで乗り切り、一緒に男の子とテニスをして遊びました。干潟では、日本にいない小さなイカやタツノオトシゴのような生きものを観察でき、とても楽しく過ごしました。

オーストラリアでは日本人が白飯を食べるように牛肉が出て、お茶や水のように炭酸飲料を飲みます。食べきれない量が多く、高カロリーな食生活だと思いました。お菓子も原色の着色料が多く、お土産で買うのはやめました。大きなソーセージは皮が厚く、日本の方が食べやすく加工してあると思いました。ぼくは将来、安全な環境で育った安心できる食材で、おいしい料理を作りたいです。そしてぼくたち世代一人一人が、自然や他の生きものを守る努力をしなければいけないと思いました。

school: 港明中学校 | 1年 | **name:** 村上 晴菜

オーストラリアに着いて、建物もたくさんあるけれど、植物もたくさん植えられているなと思いました。そして気候は過ごしやすかったです。アームストロングでは、コネワラ湖、リーディ湖が、共にラムサール条約に登録されています。なぜラムサール条約に登録されたかという、約16種類の貴重種を含め、たくさんの渡り鳥がやってくるからです。中には、名古屋にやってくる鳥もいます。ここでは住宅開発も進められていて、水を汚さないことがとても重要になります。現状、水質は非常に優れたもので、排水は有害にならないよう開発されています。植物はというと、種を集めておき後でまきます。以前なくなった植物も取り戻し、かれた木も鳥類が巣をつくるように移植しています。

私はこの派遣中、オーストラリア人と日本人の考え方の違いに気づかされました。特に環境に対する考え方です。これは、オーストラリア人のほうが意識が高いと思います。この都市開発も、ただ都市を造っているだけでなく、環境や自然に対してとても気を配っていることがよく分かります。日本人ももっと自然にふれ、そして、それを守っていく行動をとっていくべきだと強く感じられました。



同行者

● NPO等

公益財団法人 日本野鳥の会愛知県支部	千田 良恵
NPO法人 藤前干潟を守る会	亀井 浩次
NPO法人 藤前干潟を守る会	ダグラス・S・ジャレル

● 名古屋市

環境局環境企画部主幹	山田 好人
環境局環境企画部環境企画課主査	西尾 英孝

ジロング市役所表敬訪問

